

ひろば

第14号 2015年2月14日

発行者：小澤和夫

吹田市藤が丘町27-1-405

TEL/FAX 06-6388-6257

e-mail : ozak200@nifty.com

吹田ホスピス市民塾

年次総会のお知らせ

3月14日(土) 14~16時
デュオ(男女共同参画センター) 詳細は2Pへ

大きな変化の足音が聞こえる

～活動への参画、お誘い～

会長 小澤 和夫

この1年間は、当市民塾にとって、大きな変化を予感させる年でした。

1. 変化：

(1) 市役所ロビーでの「吹田がん情報コーナー」開設：

市立吹田市民病院の後援を頂き、5月から月2回午後開設。市民グループが市役所でこうしたコーナーを設けるのは全国的にも珍しいようです。

毎回2人程度の来訪とお見えいただく方が少ない事、当方の対応がまだまだ100点満点とはいかない事、何時まで許されるか不明である事などの課題があるとはいえ、画期的な事です。

(2) ピアサポーター研修の実施：

患者・ご家族との対話が増えること、厚労省が全国的に推進していることなどから、初めての試みでした。

入門講座(5H)、基礎講座(5H)の10時間の研修を経て(参加延べ：会員85名、非会員15名)、1月からは、少人数による事例研究会を始めました。

会員外の参加者が少ないなどの課題はありますが、市内のがん診療拠点病院(4病院)のMSWの皆さまが、ご多忙の中を資料を作ってご協力いただきました。これだけのご協力を頂いたのは、市民塾としても初めてのことで、今後につながっていくと嬉しく思います。

2. これからの気配：

(1) 「吹田在宅ケアネット」の強化：

8年前に市民塾が提唱してできた組織(世話人20名、代表世話人：市民病院副院長 村田幸平氏)で、これまで16回の公開研究会を開催(延べ約1300名が参加)してきましたが、これからの1年間をかけて、組織の強化を検討することになりました。

患者・ご家族ががんの終末期に在宅ケアを希望された時は、ご希望がかなえられるようなネットを作ることが目標です。難しい点がたくさんありますが、挑戦します。

(2) 吹田保健所でも「吹田がん情報コーナー」が：

保健所主催で、1月に、「吹田保健所管内がん関係機関連絡会」が開催されました。

保健所でも「がん情報コーナー」を設けたいとの事で、市の保健センター、阪大病院、市民病院、済生会吹田・千里病院、当市民塾が出席、今後も組織を作って進めることになりました。

3. お誘い：

このように、当市民塾が大きく変化していく予感がします。80名の会員さんが、一層活動に参加していただくようお誘いいたします。

以上

年次総会のお知らせ 多くの方の参加をお待ちしています

1. 日時：3月14日（土）14～16時
2. 会場：デュオ（男女共同参画センター）
3. 議題：①'14年度活動報告 ②活動の評価 ③会計報告・会計監査報告 ④'15年度方針
⑤'15年度予算 ⑥役員改選

総会において2015年度の会費をお願いいたします。

ご都合で欠席される方は、定例会や患者会・ひまわりの会でもお預かりします。

ご参加できない方は以下の郵便振替へお願いします。

郵便振替：00960-0-312240 吹田ホスピス市民塾 年会費：1200円

ピアサポーター養成研修 終了

1. 目的：がん患者サロンなどで、患者・家族の皆さんと適切な対応ができる。
2. 全体スケジュール：

	日程	H	テーマ	会場	参加人員
1	2.16（日）	5	入門講座（試行）	済生会千里病院	18
2	4.20（日）	2	がん相談室の実際	デュオ	15
3	6.22（日）	5	入門講座（第1回）	済生会千里病院	25
4	9.15（祝）	5	入門講座（第2回）	済生会千里病院	22
5	11.24（振休）	5	基礎講座	済生会千里病院	32
計	5回	22			112

3. 評価と今後の展望：（順不同）

- （1）吹田市内のがん診療拠点病院（4か所）のMSWやがん関連認定看護師の皆さんが（合計10名）、積極的に協力・支援いただいた。これをネットに発展させたい。
- （2）一般市民の参加がやや少なかったのが残念だったが、計29名（延べ）の参加が得られ、これを機に4名の入会者があった。
- （3）テキストは厚労省委託事業のもの（DVDも）をベースにしたが、各講師が更にスライドを作成頂き、理解しやすい研修となった。
- （4）今後の事例研究会への参加希望者22名、「吹田がん情報コーナー」への参加希望者12名が得られて、これからの活動展開につながりそうである。
- （5）'14.1の厚労省局長通達により、現「吹田がん情報コーナー」（吹田市役所ロビー）以外に、各がん診療拠点病院や大阪府吹田保健所などで、「がん患者サロン」が設置されるので、それらへの幅広い対応を可能にする第一歩となりそうである。
- （6）以上の効果を、今後につなげて、吹田市のがん患者・家族のピアサポーター体制をしっかりと作っていききたい。なお、各がん診療拠点病院の「がん患者サロン」との定期交流なども視野にも入れている。
- （7）ピアサポーター部会の設置

（小澤）

<2014 年度公開講座>

「がんになったら・・・あなたはどうしますか」
(1回2回とも共通テーマ)

第1回 12月20日(土) 14:00～16:00

～がん相談支援センター相談員編～

今年度1回目の公開講座は、雨のためか、寒さのためか、参加者15名、会員以外の参加は2名のみという残念な、しかし参加した人にとっては贅沢な講座となりました。

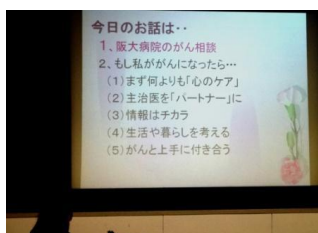
阪大病院の三浦恵里子氏、吹田市民病院の斎藤健治氏、そして済生会千里病院の松井久典氏の3人のMSW(メディカルソーシャルワーカー)のお話を聞きました。社会福祉士の資格をお持ちなので医療関係者とは違った目線で患者と関わり、患者の心に寄り添い、生活者としての患者をサポートすることを旨とされていて、福祉的であることに誇りをお持ちでした。

斎藤さんは病院の相談支援センターでは何を心がけるべきか、自分はどう考えて相談者と話しているかなどを話して下さいました。

三浦さんは自分が「がん」と言われたらどうするかをいろいろ話されました。

松井さんからは、がん拠点病院の現況とそれぞれの相談支援センターについて説明して下さいました。

いろいろお話を聞きながら、では私はがんになったらどうするか・・・まずはドクターとの信頼関係をつくること。主治医をパートナーに。ただこれが一番難しいと思うのですが。がん患者は100人いれば100様です。相談の内容はその何倍もあるのではないのでしょうか。ホスピス市民塾の課題でもある終末期をどこで過ごすか。在宅を希望したとき何時帰るのが良いのか、体制は整っているのか、悩みは尽きず辛いことも多く大変なお仕事だと察しました。それでも今後の医療と福祉のためにどうぞ頑張って患者をサポートしていただきたいと心から思いました。(黒田)



第2回 2015年1月17日(土) 14:00～16:00
～看護師の立場から～

済生会吹田病院 緩和ケア認定看護師
是澤 広美氏

2人に1人ががんに罹患するという「がん」という私たちにとって大変な病気を、がんってどんな病気、がんになるということ、がんになったらどうしたらいいのか、がんと付き合いしていくために、という4つの切り口から、事例の紹介をしながらとてもわかりやすいお話をしていただきました。

がん診療の流れでは、がんの疑いに始まり確定診断が出るまでの期間の長さ、その間のストレス等よく理解できました。気になる費用の点も所々で触れていただきありがたかったです。

ストレスについては、随分掘り下げてご説明頂き、ストレスとうまく付き合うことが大切なのだ改めて認識する事ができました。

セカンドオピニオンに関しては、担当医が薦めることもあるとの事、大変な驚きと時代の流れを感じました。

お話の全体を通じて、コミュニケーションの必要性をご説明頂きました。

講演後の質疑応答は30分余り受けていただき、多くの質問が出てよかったです。また、当塾恒例の懇談会にも気軽にご出席いただき、楽しい時を過ごせましたこと、大いに感謝しています。寒い時期でもあり、参加者が少なかったこと、惜しい気がしました。

(吉田)



<第15回吹田在宅ケアネット>

第15回吹田在宅ケアネット研修会のご報告

昨年11月29日(土)、吹田市民病院にて表記の会が行われました。40名近い参加者が集まり、市民塾からも8名が参加させて頂きました。

前半、まずは小澤会長より新しいネットワークづくりの提言として、吹田市内の医療に携わる皆様と市民塾等が一体での、在宅ケア推進プラン(案)の発表がありました。

続いて淀川キリスト教病院の池永先生より、「アドバンス・ケア・プランニング」について講義を頂きました。これは従来からの、患者自身の終末期に際する意思表示「アドバンス・ディレクティブ」より更に広義な、患者・家族と医療者が共同で終末期における彼らの最も望む状態を導き出すプロセスを意味しますが、その方がより幅広く計画的にケアを進める事ができるため、当事者の満足度も向上することを教えて頂きました。

後半は「ケア・カフェ」と題し、各テーブル4~5名のグループに分かれ、カフェスタイルで自由に発言する時間をもちました。医師、看護師、ケアマネ等の方々、そして市民が同じ目線で語り合うという大変有意義な機会で、それぞれの立場でのご苦労や想いを聞き、実践に役立つ話も多かったと思います。

特に印象的だったのは、患者の看取りを支える職業でありながら、自身が身内の看取りを経験したことがなくどうしたらいいのかわからない、または実感がないとか、医療側からは患者との意思の疎通の難しさを生の声として聞いたことです。

核家族化など様々な要因で、昔は当たり前だった家での看取りが現実として難しい昨今の状況に、一石を投じる内容であったと思います。

(松永)



ピアサポーター事例研修 1月11日に開催

ピアサポーター研修も終わり、学んだことを高めていくには実地の経験が大切です。

そこで吹田市役所ロビーで行っている「吹田がん情報コーナー」で、担当者が対応した事例をもとに事例研究会を開催しました。

参加者は8名と少なかったですが、4名ずつのグループに分かれ、カフェスタイルで事例の意見交換をしました。コーナー担当者が気づかなかった新鮮なアイデアも出て、今後のがん情報コーナーの活動に生かしていけたらと思いました。

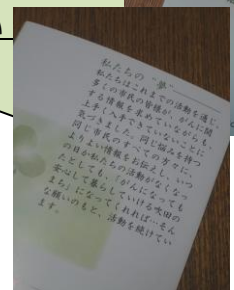
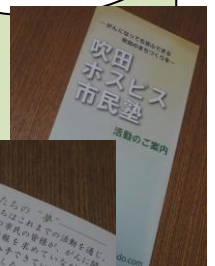
ピアサポーター事例研修会は、2月15日(日)午後1時30分よりデュオで2回目が開催されます。(益田)



新リーフレット

配布中

必要な方お申し出ください



全国の41ボランティア団体との交流で、大きな学びを

～2月7、8日（東京）FFJCP2015で～

さる2月7日（土）、8日（日）、東京TKP品川カンファレンスセンターで、一般社団法人中外 Oncology 学術振興会議の主催で、FFJCP（Forum for Japan Cancer Patients）が開催され、当市民塾から、小澤・半崎が参加しました。

北は北海道から南は沖縄まで、各地のボランティア団体37が集いました。

アメリカから3つのがん患者団体（アジア系）の活動家が来られて、アメリカの現状をお話しくれました。いずれもがん患者さんで、その中のお一人は、痛みを緩和する薬を体にセットしながらでした。その皆さん方が、人種のるつぼといわれるアメリカで、アジア系のがん患者の皆さんのためにこれまで活動してこられたお話を聞き、そのご苦労に感動しました。

日本のボランティアグループは、参加41団体が2か所にポスターを貼ってポスターセッションを、22団体が活動紹介の講演を、スライドを使って行いました。

一言で感想を申し上げると、「活動の高いレベルと大きな展開に刺激を受け、当市民塾はまだまだこれから」。なお、当市民塾からは、「がんになっても安心できる吹田のまちづくり」のテーマで、現在進めている「吹田在宅ケアネット」の強化の構想をお話ししました。「市民の立場で、医療界のまとめを推進していこうとするのは評価に値する」との感想を幾つかいただきました。

各患者会の報告の中から、気が付いたこと。（順不同）

1. 40年に及ぶ歴史の団体が複数あった。
2. 地域で、行政・医療者などとのコラボを積極的に行って成功している事例が幾つかあった。
キーはネット？
3. ピアサポーターの養成や実践を図っている団体が多かった。
4. 活動場所（大きなビル）をお持ちの団体も。
5. PRのための冊子の発行している団体は幾つもあった。
6. インターネットを使ったラジオ番組を持っている団体が2つ。
7. 意識調査を行って報告・提案している団体も幾つかあった。（3,000件の調査のケースも）
8. 患者が話し合える場として、数千万円の寄付金を集めて、東京都内に場所を内定、今後も継続して寄付を募って実現を図ろうとしている団体。
9. 会員3,000名、全国に支部を持ち、常勤の職員が20名。年間相談件数3,400件。国際的な提携団体も持って活動している。
10. 条例の制定に係わり、活動を円滑にしている。
11. 学会への報告発表なども積極的に。
12. 骨髄バンクの創始者からも、25年の歩みを。
13. 年間予算1億円を行政から。

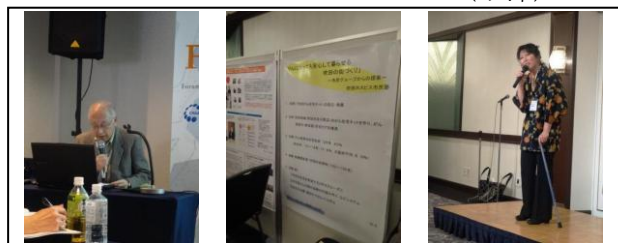
最後に、アメリカからの3人のお客さまが「日本の活動を聞いて、とても感動した」と感想を発言。また今日の参加者を軸に、ネットを作って、更に交流を深めることも決まった（市民塾の提案）。

発表グループの活動は本当に素晴らしいものでした。並々ならぬ努力が伺えましたし、それぞれなりの問題や課題を抱えながらも、更に大きな目標に向かっての挑戦が見えるととても学びが多い機会でした。

（小澤）

2日間の全国の活動紹介はそれぞれの地域性を工夫した活動でした。たくさんの学びと共に元気を頂きました。皆さんと吹田の将来像をしっかりと考えていきたいと思いました。写真は吹田ホスピス市民塾の報告の様子です。（半崎）

5



「在宅医療の質の向上を図る～在宅専門VS外来・在宅ミックス型の協働を～」

2月8日（日）日本ホスピス・在宅ケア研究会の在宅ホスピスケア実践シンポに参加しました。

講師の出水クリニックの出水明氏は 外来・在宅ミックス型診療所の長所として 外来で緩和ケアをすることで早期から人間関係ができ、スムーズに在宅移行できること、 遺族への外来でのグリーフケアができることをあげられました。

岸和田市での在宅医歴 19年を通して、ネットワークを組み、24時間対応は院内の8名の訪問看護師で、365日対応は地域の7診療所連携で運営し、そのおかげで最初の8年間に比べ、現在の在宅ケアは4.5倍に増えているそうです。

一方、在宅専門型の大阪北クリニックの森田浩嗣氏は、患者家族の生活に合わせて診療時間をとれるメリットがあると強調されました。15年前の開院時は在宅専門という聞き慣れない医療体制に苦慮されたとのことでした。現在は5人の医師が朝夕2回のカンファレンスで患者情報を共有し、1人40名前後の患者を担当され、地域の訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、ケアマネ等と連携しながら訪問診療されています。

関東は在宅専門型がほとんど関西はミックス型が多く、その分患者家族と主治医の信頼関係があり、一般市民からすればかかりつけ医がそのまま在宅医になってくれる安心感があると思いました。在宅専門で一つの老人施設で何人も訪問看護すれば、時間的にも経済的にも効率がよく、関東はその傾向が強いのではないかと考えてしまいます。ただ、それもこれも医師個人の理念次第という意見では一致しました。

その中では、エリア外であってもできるだけ広範囲にわたって在宅訪問を心がけておられる大阪北クリニックは、とても良心的な診療所だと思いました。

地域での在宅ホスピスケアも過度期を迎えていると感じた、中味の濃い会でした。 (大谷)

定例会 会員どなたでも

いずれも 13:30～15:30 デュオにて

3月14日（土）総会

4月4日（土）

5月9日（土）

患者・家族会 連絡なしでも可です

ひまわりの会（遺族会）

いずれも 13:30～15:30 デュオにて

3月7日（土）都合により中止します

4月11日（土）

5月16日（土）

部屋は別にしています

お知らせ

2月22日（日）デュオ祭

吹田ホスピス市民塾発表 10:30～11:10

3月7日（土）14～16時

第16回吹田在宅ケアネット

（詳細は同封チラシ参照）

お誘い

★ いろいろな研修など予定しています。

会員の皆様のご参加お待ちしております。

ご意見もお聞かせください。

★ 次回から会報誌の印刷 発送のお手伝いできる方
ご連絡ください。年3～4回 各1時間程度

吹田がん情報コーナー

いずれも 13:00～16:00

吹田市役所ロビーにて

3月5日、19日（木）

4月はお休み

5月7日、21日（木）

6月4日、18日（木）

一人で悩まずお話してみてください

☆新会員を随時募集しています。

吹田ホスピス市民塾

HP <http://suita-hosupisu.jimdo.com/>

ブログ http://blog.goo.ne.jp/mangopurin_2013